

仙人通信 155 日和田山(305 m)・物見山(375 m)

日和田山・物見山は、高麗川と鎌北湖の中間に連なる山脈である。一方物見山は、東京タワーと同程度の高さながらも1等三角点の山でもある。西武秩父線「高麗駅の北側にある駒台橋先の駐車場横にある登山口からのスタートである。公園の横にある大きな筒状の水道タンクに向かい進むと、日和田山に向かって作られた奥武蔵自然道だ。10分程で大きな鳥居のある男坂と女坂の分岐で左手の男坂に向う。小さな潺を渡った地点から、岩尾根(男坂)のスタートだ。男坂は、ほぼ垂直節理の岩盤に作られたコースであるが、スタンスもしっかり出来ており滑る事はない。因みに補助ロープや鎖は皆無であるが、岩に黄色いペイントで印が付けられ迷う事も無い。尾根に取り付いて15分程で女坂からのコースと合流し、南面の開けた展望台だ。右手から雲取・大菩薩・真っ白な富士・蛭が岳・大山と大きな尾根が重なり見事だ。東側には白いドームの西武球場や新宿等の高層ビル街・スカイマークが、又川越やさいたま市までも確認できた。直ぐ上には、鳥居と金刀比羅神社が祀られ、10分程で宝篋院塔のある日和田山山頂である。展望は北東方面のみだ。ここからのコースは、植林された檜林で視界は利かないも、幅1 m程の整備された自然道である。下木には、ヒサカキ・アオキ・ヤブコウジ・フユイチゴ・シダ等で、低山である事を物語る。20分程で山頂に電波中継塔のある高指山だ。中継所の点検の為に舗装整備された林道となり、5分程で四阿屋とふじみ屋と書かれた休憩所のある駒高地区である。ロウバイやマンサクが咲き、その先に富士を中心とした展望だ。30 m程先の右手に物見山の道標があり、又もや檜林だ。泥岩質の尾根を20分程で三角点のある物見山の山頂だ。ベンチが置かれた山頂は日の光が入るも、三角点は檜林の中で残念である。尾根伝いに10分程でヤセオネ峠で鎌北湖からの林道である。この林道を迎えば北向地蔵であるが、再度尾根筋を20分程掛けて進むコースである。この北向地蔵は、天明6年に悪疫を防ぐ目的で祀られたとある。地蔵の先の崖に展望台の表示があり、登って見たが伊豆ヶ岳方面が見えるのみだ。地元の方に、林道の先のスカリ山の山頂まで20分程と勧められ、登ってみた。西側には武甲山を中心に有間山や熊倉山の秩父の山脈が、北側は霞んではいるが赤城等が確認できた。北向観音まで戻り、舗装された道を20分程掛けて五常の滝へ向う。五常とは儒教で仁・義・礼・智・信を指す言葉だそうである。滝の横に咲いた侘助状の椿が、何かを語り掛けている様でもあった。檜林の中の林道を20分程進むと、国道299号の武蔵横手の駅前だ。電車が入るとの駅の放送が耳に入り、隣駅の高麗まで飛び乗た。更に25分程で駐車場へと、何とものんびりとした4時間10分(23500歩)の山旅でした。(h 29・3.17)

高麗駅からの山体



物見山山頂



五常の滝

